アマモの種まき

令和4年12月9日(金)15時～　大島干潟

アマモは、ブルーカーボンの推進において、二酸化炭素の吸収源となります。大島干潟でも二酸化炭素を吸収するのは、主にアマモです。アマモを増やすことが、ブルーカーボンの推進につながると考えます。

知ってます？ アマモとは

1. アマモは、種付けで小さい芽を出し、根が竹のように地下でつながっています。
2. アマモは、葉っぱで光合成を行い、その数を増やしていきます。
3. しかし、海中なので、葉っぱにいろんなものが付着して光合成ができなくなり、枯れてしまいます。
4. そのため、葉っぱを増やすことが、アマモを増やすことになります。

なぜ 種をまくの？

1. アマモの葉っぱは、５月から６月に種を付け、7～8月には枯れてしまいます。
2. 種を付けたものは、散布して 11～12 月に芽を出します。
3. 芽を出すためには、水温が低くなることが条件と言われています。

⬇

よって、この時期に種蒔きをしました。

種蒔き 4つのステップ プラスワン

①６月に採取して、海中で培養していたアマモの種を取り出します。

②アマモの種に腐葉土と砂を混ぜて、それをガーゼで包んだ塊を作成します。

③ガーゼで包んだ塊５つを、３メートルのロープに等間隔で吊るし、両端を鉄杭に括り付けます。

④鉄杭に括り付けたロープを平行に並べ、海底に杭を打ち込みながら沈めます。

その他：団子方式による種蒔き　寒天団子と腐葉土、カキ殻を混ぜた団子を作成し、海に沈めました。

ステップ① ６月に採取して、海中で培養していたアマモの種を取り出します

アマモの種子を入れていた袋に結んでいたロープを海中から探り寄せます。

袋は、流されていなく、予定通り出てきました。

芽が生えて、袋から突き出しています。感動モノです。

袋から出して、トレイに移します。

ステップ② アマモの種を腐葉土と混ぜて、それをガーゼで包んだ塊を作成します

発芽した芽から茎と葉が、生えているのが、わかります。

芽を手に取って見ると、発芽の状態がよりわかります。

芽を取り出して、腐葉土と混ぜ、ガーゼに包みます。

ガーゼの大きさは、手のひらサイズです。

ステップ③ ガーゼで包んだ塊５つを、３メートルのロープに等間隔で吊るし、両端を鉄杭に括り付けます。

ガーゼ(後に溶けます)で包んだものを紐で縛り、吊るせる状態にします。

ガーゼの塊を更にトラロープ１本に５個の割合で等間隔で括ります。

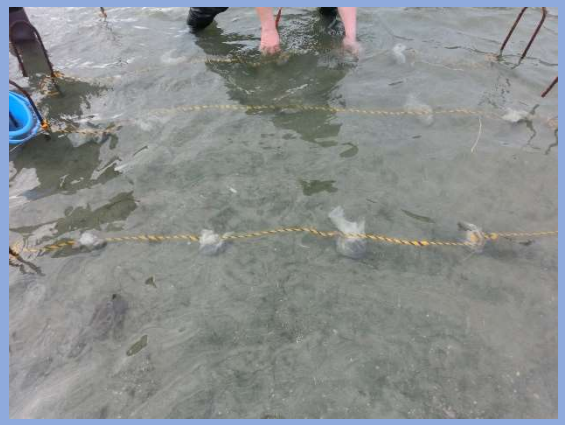
このセットのロープを４本作ります。

ロープを鉄杭にくくります。

ステップ④ 鉄杭に括り付けたロープを平行に並べ、海底に杭を打ち込みながら沈めます。

海中の砂地なので、杭を力強く底地へ打ち込みます。

４本のロープを平行になるように、杭を並べていきます。



上から見ると、こんな感じです。

完成です。とにかく寒かったです。

その他：団子方式による種蒔き

寒天団子と腐葉土、カキ殻を混ぜた団子を作成し、海に沈めました。

寒天粘土１袋分から団子を２つ作ります。

団子１個につき、アマモの種子を 10 粒くらい埋め込みます。

団子に腐葉土。カキ殻を適量混ぜて、よくこねます。

海底に沈めます。カキ殻があるので、固定されます。

※寒天粘土とは、寒天、水、食品用増粘剤を原材料に使用した環境に優しい粘土であり、海に投入するとやがて分解されなくなります。

【この種まきの結果は】

　アマモは、３月から４月にかけて、生えると言われています。

　今回の種まきは、試験的ですが、結果を見ながら、今後のブルーカーボンの推進に活かしていきます。